

# ASAPカンボジア通信

NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会



## 2014.3

### ■ 第19回視察訪問のご報告

長谷川 理事長…P1

### ■ キロタチュム小学校校舎落成 …P2

### ■ トロピアンプレイ中学校着工…P2

### ■ 支援校の様子…P3～4

### ■ Mother to Mother 報告 …P5～6

### ■ 絵画授業の様子…P7

### ■ ツアー参加者感想…P8

### ■ 日頃の活動が評価されて…P9～10

# Vol.13

## 第 19 回視察訪問のご報告

理事長 長谷川 安年

去る平成 26 年 1 月 24 日から 29 日まで、第 19 回の支援ツアー先発グループ 12 名、2 月 2 日から 5 日にかけて後発の学生主体グループ 13 名の支援活動を実施し、無事終了致しました。

今回は ASAP 寄贈第 6 校舎目になるキヨタチュム小学校校舎の落成式と共に、コールタメイ地区への子ども用の古着配布、Mother 活動作業場用地購入、トロピアンプレイ中学校建築契約等をはじめとする多くの予定が繰り込まれた行程となりましたが、お蔭さまで多くの成果を得る事ができました。

私が初めてカンボジアを訪問してから気づけば 8 年であります。最初の一枚こそ私の私財を投じての寄贈でしたが、その後多くの方々からお力添えを頂き、今回の 6 校舎目寄贈にまでになった事は感謝の念に堪えません。

さらにこの度、「校舎寄贈に終始することなく継続した支援を」という ASAP の姿勢を評価頂き、(株) ラッシュジャパン、かめのり財団、東京秋川ロータリークラブ、東京昭島ロータリークラブより、多額の寄付及び助

成金を頂けることになりました。資金不足で支援に応じられないことの多い中、非常に有り難い事であります。

また、視察訪問を重ねる中、学生の方々の参加が増えて参りました。若者の国際理解に一役かえることは大変喜ばしい事です。

この様に支援活動が着実に実施できておりますのはご支援いただく皆様のお蔭であります。あらためてお礼を申し上げますと共に、今後とも ASAP ご支援ご協力をお願い申し上げます。

カンボジア通信 Vol.13 をもち、今回の視察訪問報告及びこの半年の活動報告をさせて頂きます。

### 19 回視察訪問日程

- 2月24日 日本出発
  - 25日 タットム校訪問  
Mother 製品指導  
作業場建築用地購入  
ルムチェック村 小視察  
セアン・ブン・リアノ大臣より夕食ご招待
  - 26日 キヨタチュム小学校校舎落成式典  
式典後コールタメイ地区視察
  - 27日 多摩川コールタメイ小学校訪問  
トロピアンプレイ小学校敷地内中学校建築  
予定地視察
  - 28日 観光及び視察後、帰国
- 
- 3日 学生グループ支援活動開始  
タットム、トロク  
アルバム製作及び音楽活動
  - 4日 コールタメイ ドッチボール指導
  - 5日 コールタメイ支援活動



## 寄贈第 6 番目 キロタチュム小学校落成

昨年 8 月に着工した ASAP 寄贈第 6 校舎目、キロタチュム小学校校舎が完成し、1 月 26 日におこなわれた落成式典に参列してまいりました。

全生徒は勿論のことシアン・ブレマン大臣、シュムリアップ州副知事をはじめ多くの来賓と多くの村人が参列し盛大に行われ、理事長より「しっかり勉強し、後輩の為にも学校を大切に利用して頂きたい」と ASAP の願いを込めた祝辞を述べました。

この校舎には、理事長の提案で、既存校舎との間を繋ぐ「渡り廊下」が作られました。日本では当たり前ですが、カンボジアでは未だ見たことがありません。「雨の時や、将来土足でなくなる時が来る。その時には絶対必要だ」という思いからの「渡り廊下」実現です。

雨季になったら「渡り廊下」の価値がわかってもらえることでしょうか！（そう願います）



以前の古い教室



新しい教室（左）と渡り廊下（奥）

## 寄贈第 7 番目 トロピアンプレイ中学校工事着工

予算の都合上当分先と考えられていたトロピアンプレイ中学校（コールタメイ小学校の子どもたちが通う中学校）ですが、(株) ラッシュジャパン様からの寄付で寄贈が決定し、2 月、工事を着工しました。（詳細は P 9 にて）

カンボジアでは高等教育を受けられる子どもはほんの一握りです。通える地域に中学校がない、というのが大きな理由のひとつです。私達も実際に今この地区の子どもが通う中学校を視察しました。距離でいえば 12 キロ。多摩川コールタメイ小学校からでは 17 キロです。まさに「こんなに遠くには通えない！」というのが実感でした。多くはこの距離でドロップアウトしてしまっているというのにもうなずけます。勉強を続けたいとおもう子どもたちに大きな道を開くことができると思うと喜びもひとしおです。完成は 8 月の予定です。

## 支援校の様子

### 卒業生が先生になって戻って来た！（タットム小）

Vol.12 でもお知らせしましたが、私たちが支援を始めたころ生徒だった子どもたちが先生になって学校に戻ってきてくれました。

先生がいない、という状況をどうにかしなくては、という思いで「先生への教育支援金給付」

「児童一人につき年2ドルの学校運営費用支給」をはじめとした様々な支援を継続してきました。

「いつか卒業生が先生になって戻ってきたら嬉しいね」と話していたことが実現したのです。

ちなみに、赴任先は本人が選択できるシステムなので、本人が母校を希望した結果です。

「ASAPのこと覚えている？」という問いに「はい」という返事。胸がいっぱいになりました。



新しい先生達

### 日本語大作戦 …4 か月経過…（タットム小、トロク小）

昨年9月からスタートした「日本語習得大作戦」の成果は出ているのだろうか…。

かなりドキドキした学校訪問でした。

始めてから訪問までのレッスン回数は24回ほど。外国語習得がどんなに大変かは日本の英語教育の現状からみてもわかっていますが、どうしても期待してしまいます。

学校に到着するとまず、「こんにちは！」と大きな声で出迎えてくれ、ひらがなやカタカナの読み書きができるようになっていました。以前には感じられなかった日本や日本語への興味、意欲をととても感じることができました。

まだまだ片言ですが、直接言葉で交流できるというのは本当に素晴らしいと実感します。

観光が主のカンボジアで日本語が少しでもできるという事は、ホテル、レストラン、お店などでの就職に大変有利です。日本語を覚えた学校の先生たちが、(将来建つ) ASAPの作業場で日本語学校を開き村の子どもや青年に教えることによって若者の将来に新しい道が開けます。レッスンがどうかこのまま順調に進んでほしいと願うばかりです。

## 古着を配りました（多摩川コールタメイ小）

前回 8 月の訪問時に目にした、多摩川コールタメイ村のあまりの貧しさに、今回、支援の皆様や、多摩川幼稚園のご父兄に古着の提供を呼びかけて、集まった段ボール 4 箱ほどの古着を村の子どもたちに配って参りました。古着といえども、自分たちの着ているものに比べるとピカピカの洋服に大喜びする親や子どもたちでした。



## しっかり役立っていた 手作りリュック（コールタメイ）



24年の夏に配ったMother to Motherの手作り通学リュックが、何人もの子ども達の背中にちゃんと輝いていました。小さな支援ですが、あの貧しい村の子ども達にとっては大きな意味のある支援だと改めて感じました。継続したいです！

## 記念植樹のバナナがついに！ （コールタメイ）



学校落成時に学校の経済自立支援にと、バナナとドラゴンフルーツの苗を植えました。1年が経ち、バナナの実がなり始めました。果物を子どもたちの食用にしたり、収穫で運営費用を得るまでを目標にしています。

# Mother to Mother 活動報告

## 「もう無理…」やめたくなる時、続ける勇気をもらう時

Mother 担当 大沼 陽子

Mother to Mother を発案してから 5 年。毎年 1000 枚近くの商品をカンボジアのお母さん達とやり取りするまでになりました。皆様のご協力に心よりお礼申し上げます。

順調に進むときもあれば、「なんでこんな事が！もうダメかも…」と思う事も起きています。狭すぎて紐が通らない製品が何十枚も届いたり、指示と左右逆になって売り物にならなかったり、ボタンが中心からずれていたり、指示が的確に伝わらず違う作りのものが届くなどです。

今回も、子どもの首が入らないほど小さなエプロンが届いてしまいました。保育園への納入期限が数日後にせまっています。売り物にならない商品の山の前で思わず「もうダメだ…」と座り込んでしまいました。

途方に暮れ、行きづまったその時支えてくれたのが「ASAP ボランティア隊」でした。事情を知ったボランティアの方々が一人二人と洋裁の得意な知人に声をかけて下さり、総勢 10 名の方が駆けつけて下さったのです。何と 2 日後には作り直しが完了したのです。信じられない速さに驚くと共に、こんなにも人の善意に感謝したことはありませんでした。恩に報いるのはカンボジアの子どもたちに支援をとどけることしかありません。やる気が沸き起こります。

この様に、問題勃発や、くじけてもう前に進めないかも…と思う私の背中を支えて前に進めてくれる沢山の人たちがいます。

「帰国までに縫って！」と急ぎの品をお願いすると、必死に縫い上げてくれるカンボジアのお母さん達。

「今年も Mother 製品をご父兄に紹介して頂けますか？」と恐る恐る入れる電話に、「喜んで」とご協力くださる各園長先生方。遠方から何度も布を送ってきてくれる支援の方。毎年注文を下される方々。そして、紐通しや準備を請け負って下さっているボランティアの方々。

沢山の方が Mother to Mother 活動を支えて下さっています。

本当にありがとうございます。そして、どうぞこれからもよろしくお願い致します！！



作り直し作業の様子

# 将来を見つめて…

## 作業場建築用地を購入しました

マザー活動の最終目標は、現在日本で行っている活動をできるだけカンボジアに移し、活動自体をカンボジアのお母さんたちで自主運営することです。現在作業はタットム小学校校長の家で行われていますが、もっと広く、収納や作業スペースの整った場所が必要になってきたと判断し、拠点となる作業場を建てる決定をいたしました。

幸いにもタットム小学校の隣地を所有する方が、「学校を支援してくれている ASAP なら土地を譲ってもいい」と申し出て下さり、購入できることになりました。

しかしながらカンボジアでは外国人が土地を購入することはできません。そこで ASAP 発足以来お世話になっている、土木会社の奥さまのポッパーさんの名義を借りて無事売買手続きを終えて参りました。

学校隣接地というのは、マザー活動だけにかかわらず、将来日本語教室を開いたり、私達の現地拠点としても大いに活用できます。また、将来活動を終了する時期が来た時には学校に寄付することもできます。

今また新たな一歩を踏み出すことができました。



購入した土地。右建物が学校です

## 新製品に向かって

mother 活動のもう一つの夢は、カンボジアで売れるお土産を生産することです。

日本に頼ることなく国内でお土産を販売して収入を得られたらどんなに良いでしょうか。そこで今回、日本から「新製品の製作方法を伝授する」事を使命とした支援者3名が訪問し、蒸し暑い教室の中、長時間お母さん達と縫い物に向かってくださいました。

新しい製品が誕生するにはもう少し時間がかかりますが、お楽しみに！



教室にあつまり作り方を伝えている様子

## タットム、トロク絵画授業の様子

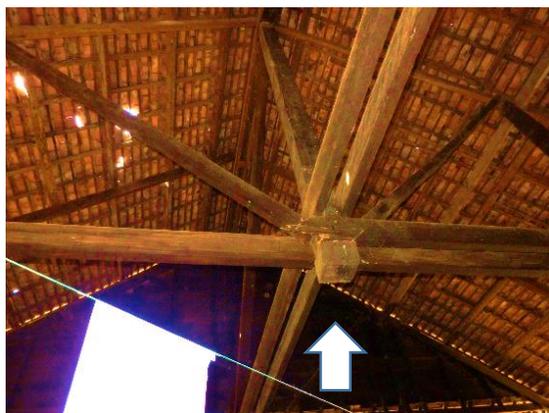
シェムリアップの笠原智子先生による絵画指導の様子が届きました。1～2ヶ月に一度、ガソリン、材料費、通訳費のみでご指導くださっています。カンボジアにおいてこういった授業が受けられるのは、本当にラッキーなことなのです。暑い中ご指導頂いている笠原先生のお姿に感謝しかありません。学校の先生達も教える技術を学んでほしいと伝えています。



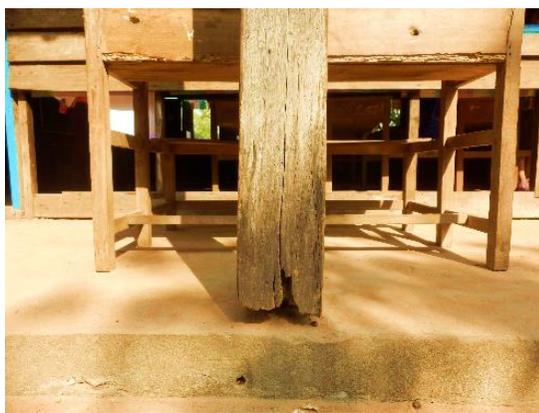
笠原先生の学校 「小さな美術スクール」は [www.smallartschoo.org](http://www.smallartschoo.org) です

## ワットルン小学校視察

トロク小、タットム小のある村で支援を必要としている学校があるという情報が入った為視察しました。生徒数 538 名 14 クラスのワットルン小学校です。一見問題なさそうな校舎でしたが、中に入るとシロアリで柱がごとく朽ちている状態でした。このような小学校がまだたくさんカンボジアにはあります。



屋根には穴。本来有るべき建物の大黒柱が折れています



他の柱もシロアリでボロボロです

# 支援ツアーに参加して

明星大学 ボランティアクラブ BUKAS 鈴木 若菜・園部 美樹

私達 BUKAS はスタディーツアーとして年に一度カンボジアへ行き、村の子供達が学びながら、より楽しめるよう活動を計画し実施しています。カンボジアの様々な場所へ行く中でカンボジアの抱える様々な問題点を知りました。

今回参加した ASAP のツアーではカンボジアでは教員の数が少ない等様々な“教育問題”に向き合い、継続的な支援活動を考えながら、インプットしてきた学びを行動に移す機会となりました。

トロク、タットム小学校では中退することなく晴れて卒業を迎える 6 年生を対象に卒業アルバム制作と、5 年生に木琴指導をしました。

アルバム制作では絵の具を筆を使わず指を使って製作をしたり、マスキングテープを使い絵の具の用途を広げたり、クレヨンと絵の具との違いを楽しみながら画用紙上で自分を表現できればと考えました。この先、現地の先生が計画し作品作りをするようになるのが楽しみです。

音楽教室ではリズム遊びから始め、音楽に親しむことをメインにし、最後にはミニ木琴を使い“かえるのうた”の合奏をすることが出来ました。腹八分目を目標にやりたいこと詰め込み過ぎず、またやりたいなあ！の気持ちを残せるよう全力で向き合いました。

音符を教えていないので次回音符のリズムから入り、スムーズに音符を認識出来るようになればいいと思います。先生も楽しそうに参加をしていたので継続的に伝えていくことや私達が帰った後の事を想定して準備をすることが大事だと感じました。

コールタメイではドッジボールの導入を行いました。初めてのドッジボールでしたが、想像以上の到達度で次の夏には他校との対抗戦が出来るのではと思う程で、コールタメイはなかなかの強豪校になりそうです！ドッジボールを通じ子供達はチームワークや相手を思いやる気持ちを知り、皆で楽しむことが出来たことで、今回の体育の導入が学びの一つになっていたと思います。

学校の教育内容を濃くすることを目的に、継続的な活動の計画を行いました。継続することの大変さや重要性など様々なことを感じました。計画を練り進める中で更に伝えたい事柄やどう継続していくかなど沢山の案が出てきて夢中で話し合いをしたりしたので楽しかったです。それと同時に、私たちが今“学ぶことの出来る環境”を持っていることを貴重に思い、大事にしていこうと思いました。



日本で準備した「紙の木琴」も使った音楽遊びの様子

## 日頃の活動が評価されて！！

### (株) ラッシュジャパンより 400 万円の寄付

2年前(株)ラッシュジャパンから Mother to Mother 活動の発展と充実のために 140 万円の助成金を頂いたことをおぼえていらっしゃいますでしょうか。昨年 11 月、同会社よりさらに驚くべき連絡が入りました。ラッシュで ASAP の名前入りのチャリティーポット (ボディークリームのカップ、ひとつ 500 円) を販売し、その売上全額 400 万円分を ASAP に寄付して下さいというのです。

ASAP の支援方針や、みんな Happy のマザー活動が良い、という理由で、何百とある団体の中からたった一つ ASAP を選んで下さったのです。

多摩川コールタメイ小学校の卒業生が通える距離に中学校がないのでどうにか建てて頂けないかと相談を受けていた矢先でしたので、中学校建築資金に使わせていただくことにしました。既に着工致し、8 月完成予定です。



1月に完売し、400万円の寄付をいただきました



トロピアンプレイ中学校。赤丸印のところに中学校校舎が建ちます

### 東京秋川ロータリークラブより図書室寄贈決定

ASAP の地元、あきる野市の「東京秋川ロータリークラブ」より 100 万円の寄付があり、多摩川コールタメイ小学校に図書室を寄贈して頂くことになりました。

カンボジアでは、ポルポト政権時代において、字が読めるというだけで大勢の人間が殺されました。その為今でもほとんどの村の大人が字を読めず、さらに貧困の為本を買うことなど到底できない状況にあって読書習慣は崩壊してしまっています。学校に図書室があるという事は、子どもたちにとってどんなにか希望になることでしょうか。完成は 8 月予定です

## 公益財団法人 第7回かめのり賞受賞

公益財団法人 かめのり財団では毎年日本と文化やスポーツ等アジア・オセアニアの相互理解の増進に草の根で貢献している方々の活動を顕彰し、支援しておいでになります。今年第7回かめのり賞を受賞することができ、50万円の活動奨励金を頂くことができました。以下は受賞の基準です。

1. これまでの活動歴、活動内容とその成果。
2. 他団体との有機的な連携や協働、地域やボランティアの人々と共に活動し、継続的に自立、発展出来るような仕組みを作っていること。
3. 活動自体に独自性を持ち、他にない取組みをしていること。
4. その活動が社会の必要性に合致し、将来を見据えた事業展開を考えていること。
5. アジアを中心とした活動や青少年を主眼とした交流や人材育成であるか、また支援する側と支援先が直接交流する活動をしているか



受賞の様子

## 東京昭島ロータリークラブより寄付決定

近隣の昭島市にある「啓明学園高等学校」との支援活動協力がきっかけとなり、「東京昭島ロータリークラブ」より支援のお申し出を受けました。

支援内容決定の為には現場を知らなくてはと、今回の訪問にも同行され、現在支援内容を検討中です。学校や子ども達の教育に一番有意義な支援をとお考えです。次号で詳細をご報告させていただきます。

**支援を必要としている事はとても多い反面、予算には限りがあるのでこういった寄付や助成金は大変ありがたいことです。**

**さらに、「活動を認めて下さった結果」という事が、日頃活動を行っている私達やボランティアの皆にとって非常に光栄で励みになる嬉しい出来事でもあります。**

**本当にありがとうございました。**



割れないボールを手に



校長先生宅に集まって縫いもの中の Mother 達

### <編集後記>

子どもたちはボール遊びが大好き。でもすぐに割れて使い物にならなくなってしまう現状を何とかできないかと探し出した「ナイフで刺しても割れないボール」を昨年8月にもっていったのですが、しっかりと活躍していました。

手作りリュックやボールが子どもたちに役立っているのを見ると、ささやかな支援とはいえ、子ども達に役立つ実質的な支援ができていると嬉しく思います。

支援いただいている皆様に伝えたいことが多すぎて困ります！

## 支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。

- \* 正会員… 年 20,000 円
- \* 賛助会員… 毎月 1,000 円 (年額 12,000 円)
- \* その他支援金… 金額を問わず随時受け付けております



■郵便振替口座 00130-2-594647

『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033

普通口座 1292601

口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会  
理事長 長谷川 安年 (ハセガワ ヤストシ)』

**\*注 同封の振込み用紙は振り込み料がかかりません。ご記入の上ご利用下さい**

## ASAP カンボジア通信

ASAP 会報 Vol.13 2014.3

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会  
(省略“ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地

TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)

FAX 042-550-2467

メールアドレス [asap@tamagawa-kids.jp](mailto:asap@tamagawa-kids.jp)

ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/asap/>

■発行人 長谷川 安年